

平成26年度 第3回豊田市スポーツ推進審議会 会議録

【日 時】 平成27年3月26日(木) 午後2時30分～午後4時00分

【場 所】 豊田市役所 教育委員会議室

【出席者】 (委 員) 小幡 銀伸 ((公財)豊田市体育協会 会長) 《会 長》
加藤 恵美子 (豊田市スポーツ推進委員協議会 会長) 《副会長》
湯浅 景元 (中京大学スポーツ科学部 教授)
岩月 富士雄 ((一社)豊田市身障協会 理事)
手嶋 道雄 (豊田市スポーツ少年団 本部長)
平林 栄子 (スポーツ指導員 代表)
北村 幸子 (豊田市女性スポーツ団体協議会 会長)
鈴木 秀次 (豊田市健康づくり協議会 会長)

【欠席者】 (委 員) 藤原 睦行 (事業所代表 トヨタ自動車㈱ 人事部)
近藤 憲彦 (豊田市区長会 理事)
柴田 昌隆 (豊田市小中学校長会 代表)

【事務局】 福嶋 兼光 (教育長)
宮川 龍也 (教育行政部副部長) 伊藤 勝介 (スポーツ課長)
杉山 寿美雄 (スポーツ課副課長) 梅村 靖之 (スポーツ課担当長)
畔柳 隆二 (スポーツ課担当長) 太田 信人 (スポーツ課担当長)
田中 真美子 (スポーツ課主査)

【傍聴人】 0人

【次 第】 1 教育委員会あいさつ
2 会長あいさつ
3 議題
(1) 第2次豊田市生涯スポーツプランの進捗について(資料1)
(2) 東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた豊田市の取組みについて
(資料2)
4 報告
(1) ラグビーワールドカップ2019豊田市開催決定

【会議録（報告、議題部分のみ）】

■議題（1）第2次豊田市生涯スポーツプランの進捗について

事務局：資料に基づき説明（資料1）

委員：スポーツ推進委員が各地域にいらっしゃる。この方たちに技術的な指導以外に地域をまとめたりスポーツクラブを立ち上げてほしい。地域によってはすでにできて活発に活動しているところもあれば、全然やろうと思ってもやれなかったところがあると思う。こういう方たちが一緒になって話をしてどういうところから手をつけたらいいかなど考えるといい。というのも、指導者だけに偏ると種目の話になったりということもある。みなさんと一緒に体を動かすことが好きな人たち。また、各地域から出ているので豊田市全体を把握することができる。この人たちを主体にしながら体育協会に技術的な支援をお願いすることを考えてより一層地域に入って作り直していただきたい。成功したところの話の聞いたり、どうしてもできない話もある。なぜできなかったのかを共に考えながら進めれば豊田市全体の歩調をある程度同じにしてスポーツクラブができていくと思う。区長を含めた地域の話し合いも含めて進めていけるといい。必ずしも体を動かさなくてもいいと思う。例えばじゃんけんゲームみたいなものでも、子どもや大人、おじいちゃんおばあちゃんも一緒になってできる。そういうものを考えながら周りでやっている人とやっていけるといい。

事務局：スポーツ推進委員は155名いる。コーディネーショントレーニングをやっていたり、各地区でニュースポーツの提供をさせていただいているほか、体力測定診断システムを作って各地域に出て行ってスポーツ推進員を中心に自分の体力を知って目標を持って取り組んでもらおうということも考えている。スポーツクラブは12クラブあるが、無い地域は近隣のスポーツクラブがカバーしたり、スポーツ推進委員が活動していただくことで進めていきたい。今年度、教育委員会の点検評価でスポーツ推進委員の活動が対象事業となり意見を聞いた。時代の変化とともにニーズも変わってきている。そのニーズをつかみながら新たな一緒に考えていきたいと思う。

委員：スポーツ推進委員が地域とのコミュニケーションを密にして、自分から地域に入っていって一緒にやる。じゃんけんも手の無い人でも足でできる。自分の地域についても他の地域の状況を見て改めて考える。運動も球技だけではない。スポーツ推進委員が一体となって取り組んだら成果が出ると思う。活動の無い地域を少しでも減らすといい。「ながら体操」でもちょっとしたことも運動と捉えている。

委員：1980年になる前から、略語でいうとニートということを展開していこうと。ニートというのは、非スポーツ的なものも運動とみなしてあげようということで世界的に展開し始めてきた。日本でもようやく運動と生活活動をきちんと分けて、その2つを合わせたものを身体活動ということで、エクササイズなどの言葉で表現されている。スポーツということを経営スポーツと考えれば今までのスポーツでいいと思う。ただ、子どもも成人も全て含めて健康に対するスポーツというスポーツという言葉は非常に不適切な表現になる可能性がある。運動というのは、例えば筋肉を強くしたいためにこういう風に身体活動をしますという組織だったものが運動で、それ以外のは生活活動。今は生活活動も健康づくりの1つとしてみなしましょうということ。そういうことも展

開の中で含めていくべき。運動するときには体に負荷を加え、生活活動は楽にする。というのも生活活動で怪我をする人がいることも事実。布団を干そうとして腰を痛めてしまう。どうしても運動することができない人はそのかわりに生活活動すればいいけれど、運動で賄う方をいかに楽にするか。こういうのも展開すると、スポーツという大きな枠に入っていける気がした。

委員：現実的に12以外のスポーツクラブが立ち上がるかと言われると難しい。その前に地域の皆さんといかに体でコミュニケーションをとるかということで、平成27年度は大いにスポーツ推進委員で語り合い、問題点も多々あるが、27地区あると色んな課題を持った地区がある。街の中、山の中、同じようにやってもなかなか難しいところがある。それぞれの問題点を議論しながら、色んな人を巻き込んでやっていくには何が必要なのか。まずは各地区、コミュニティに自分たちが入り込んで強制ではなく一緒に触れ合わせていただく。今までこういうことはあまりやっていない。来年度の課題は、いかに触れ合うコミュニティを増やすか。そこからステップアップして、新たなスポーツクラブ設立につなげるという感じで進めていければ。

会長：生涯スポーツプランはあと3年。来年は審議会メンバーも変わると思うが、次の第1回目は、今の整理をして次の3年は何をしっかりとやっていくかを出した方が分かりやすいと思う。今回付けた評価も、反省をしてBをAの評価に上げていかなくてはいけない。そういうフォローも必要。まだある問題を具体的に資料として出してもら方がいい。ここで出る意見で終わってはもったいない。それを具体的な展開にどうつなげるか。

事務局：B評価の改善は必要。もう少し分かりやすく説明できるようにする。

■議題（2）東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた豊田市の取り組みについて

事務局：資料に基づき説明（資料2）

委員：もともと近代オリンピックはアートの部分も強調されている。必ず開催地では芸術的なものをやっている。音楽祭など。豊田市にもアートを組み込めないか。アートアンドサイエンス。科学を強調することが出てくる。同時にアートも強調される。東京で開かれるが、豊田にもぜひ来てほしいという話。3年ほど前に中京大学で学生たちとポスター展をやった。地元の方にも来てもらって。スポーツ博物館をいつか立ち上げたいということでお願いしている。ぜひ豊田市に博物館を作るなどしてゆかりのものを一同に集めるとか、または芸術の部分を展開できるようにしてほしい。

事務局：アートというのはスポーツに絡んだものか？

委員：昔は関係なかった。画家が出場するというもの。非常に著名な方が予選で落ちたという記録もある。もともとオリンピックは、「芸術」と「身体で表すもの」の2つで競いあおうということで始まった。残念ながら4回か5回目で途絶えてしまった。その後、開会式で芸術的な要素を出してみるとか、音楽祭をやる形に入れ替わってはいる。東京も芸術部分はある方にプロデュースをお願いしている。できれば早く取り組んだ方がいい。市民と一緒に参加しながら。市でやっている展覧会をオリンピックと絡めてやってもいいと思う。

- 事務局：豊田市には文化関係の団体もたくさんある。オリンピックもラグビーも文化団体と一緒に展開すべきだと思う。
- 委員：室伏広治と世界のトップアスリートに30秒の限定で自分のスポーツ種目をビデオで写し、集まった順に並べて投影する。来ていただいた方には好評だった。
- 会長：強化選手への取組みはあと6年しかない。
- 事務局：現在は、国や県のレベルでの取組みが中心。県では強化選手の指定をしたり、遠征費を補助したりといった取組みをしている。市レベルは少ない。どうやって指定するか。どう支援するか。引き続き調査をさせていただき、良い方法があれば。
- 会長：障がい者でオリンピックを狙えるような人はいるか？
- 委員：組織的に動いている人たちが強い。色々な予選や大会に取り組んでいる。そういう人は特定の人たちが連れていってしまう。過日、県の方から選手を教えてほしいという打診があったが、私たちの手の出せないところですでに動いてしまっている。同じ障がい者でも努力している人はいるが、組織で抱えてしまう。障がい者にも陸連などあり、そこに加盟している人は抱えられる。
- 会長：羽根田選手は1人で頑張っている。杜若高校でもオリンピックを狙える選手も何人かいると聞く。
- 事務局：猿投農林高校でボートやっていて、早稲田大学に行っていて頑張っている人もいると聞く。どこまで強化指定するか。
- 会長：豊田市で頑張っている人も、その後県外に行ってしまうと手が出しにくい。
- 事務局：この辺りは引き続き調査は必要。
- 委員：名古屋市は、名古屋市在住か名古屋市在学かという要件にしようとした。日本記録を作るとか国際大会に出るとか色々な基準はあると思う。何人かの選手は個人で援助を受けるために1口500円とかの支援を作り、大会に出ればその額に応じて手紙を出すとかお土産を持って来るなど選手なりに取り組んでいる人もいる。大学にいる人は把握できるが。
- 事務局：どこで線を引くかが難しい。奨励金制度はあるが育成にどうつなげるか。
- 委員：もしスポンサーがつくならどういう内容がいいかを聞いたことがあるが、一番は現金だった。しかし、用具の提供も費用がかかる。体が不自由な人はサポーターなど。名古屋市は指導者も含めて援助することにした。種目によってはそれをサポートする人も含めた支援を検討すべきだと思う。
- 委員：障害者スポーツ協会はすでにながりの選手を把握している。新たに見つけるということは難しいと思う。いないのではないかな。すでにランキング表を作っている。スポンサーやボランティア探しもしている。
- 委員：競技スポーツになると、体育協会絡み。市民スポーツというより。加盟団体である程度把握しているのでは。スポーツ少年団もやっているが、そこは楽しく取り組むのがメ

イン。その中で一握りの人たちが上を目指す。そういう人たちを集めてさらに取組みをしている。活動を見ていると、場所取りを含めて苦勞と努力を見ると大変。その中で杜若高校の先生も絡んで、場所の提供や技術指導などもあり小学生から育てている。そういう子どもたちへの支援があると、継続的に見て何かできるのではないか。スポーツ少年団とは別の活動だが。

会 長：ソチ五輪には中京大学から6人出ている。トヨタから3人。他の市に比べたら中京大学やトヨタ自動車は力を入れてくれている。冬でもそうだったのだから夏も。これをどうバックアップするかは難しいと思うが。育てることにどうお金を出すか。

委 員：競技によっては競技そのものを市民に知らせてあげることも大事。

事務局：名古屋市のケースも含めて調査をする。ボランティアの開始時期は未定だが、1～2年先か。

委 員：夢先生で上手に話せるアスリートがいるということだが、選手の人たちに絶対に言うてはいけないということで、ナショナルトレーニングセンターも含めて、インタビューを受けると「そうですね」と答える。それはやめようと。10年くらい前からスポーツ選手のコミュニケーションを徹底させようということ、人前でも話ができるということ、勉強しようということをやっている。かなり多くのことを語れるようになってくると思う。

会 長：拳母小学校の室伏選手の話が非常に良かったと聞いた。

事務局：トップで成功した人よりも、挫折を多く経験している選手の方がいい話も多い。

委 員：選手強化の支援ということだが、末野原中学校にいた松井先生、あの人がオリンピック選手を育てたということで、東京オリンピックに向けてもまた指導していきたいということも聞くので、能力ある指導者も支援できるようにしたらいいと思う。指導者の発掘も必要だと思う。

委 員：少年団はスポーツというより運動。アスリートを育てるのが目的ではない。秀でた子が出たら次の段階に送ってしまう。紹介状を付けて紹介する。その子は地域で光っているのでおおよそ希望が叶う。我々は発掘するところで頑張らせてもらう。

■報告（1）ラグビーワールドカップ2019豊田市開催決定

事務局：資料に基づき説明

質問・意見なし

以上